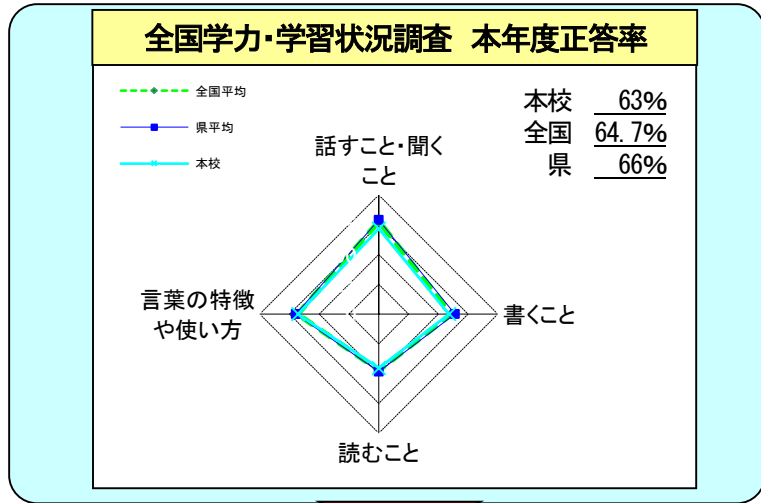


指導方法等の改善計画について〔国語科〕



重点課題

【課題1】 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(設問3二【書くこと】)(正答率53.8%)理由を述べる、字数を守って書く、叙述から取り上げるなどの条件を満たしていない。正答率が県平均から-8.1%となっている。

【課題2】 文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができる。(設問3三(2)オ【言葉の特徴や使い方】)(正答率35.9%)修飾語が文の中でどの語句にかかるのか捉える事ができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

- ・事実と感想、意見の違いを理解し、それらを区別して書けるように指導する。
- ・条件を満たして考えをまとめて書く活動を授業に取り入れる。

【課題2】

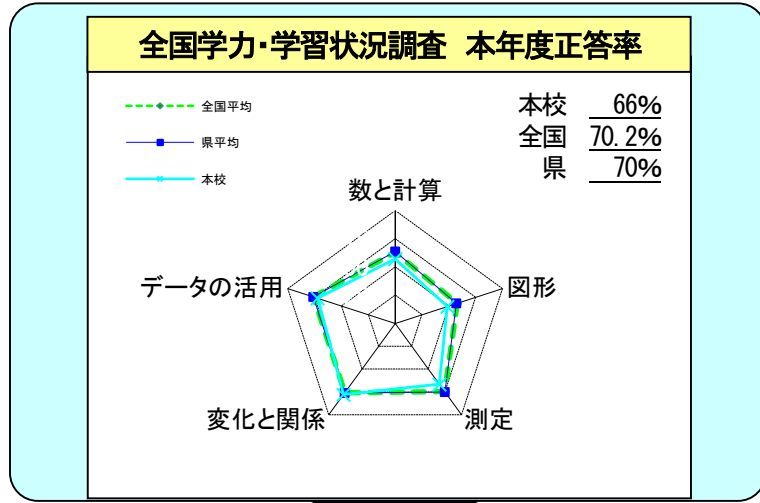
- ・いろいろな文例で修飾語と被修飾語の関係を理解し、帰納的に文の構成を考える学習を行う。
- ・いろいろな修飾語と被修飾語を使った文を作る事でより深い理解につながるよう指導する。

※ 小中一貫した取組については、言語の基本的な知識を定着させ、目的や場面に応じて、全体の構成を捉え、条件に合わせて、考えをまとめて書く活動に重点を置く。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4.5年 標準学力調査	5年 R2「全国学力」	5年 R3「全国学力」	4.5年 学年末まとめテスト
目標値				70%	70%	70%	80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4.5年 類似問題		4.5年 類似問題	
目標値				90%		90%	
実施後数値							

来年度に向けて



重点課題

【課題1】 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。(設問2(2)【図形】) 必要な情報を見いだした上で、算数的用語を用いて、平行四辺形の面積の求め方を筋道を立てて説明することができていなかった。正答率38.5%で県平均から-8.2%となっている。

【課題2】 商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算する。(設問4(2)【数と計算】) 商が1より小さい場合の除法についても、被除数に当たる数と除数に当たる数を判断して式に表すことができなかった。正答率46.2%で県平均から-7.9%となっている。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・底辺をどこにとるかで高さが決まることを理解させるために等積変形といった図形の操作活動を行う。
- ・必要な情報を自ら選び出し説明させる活動を行う。

【課題2】

- ・問題の解答の見通しをもつために、見当を付けるなど予想をして解くことで誤答を防ぐ。
- ・計算の意味を考え説明する場を設定する。

※ 小中一貫した取組については、単位に注目して数量の関係を捉え、変化の特徴や問題解決の方法を「図・表・式・グラフ」などの数学的表現を用いて表現したり、表現されているものを読み取って考えたりする活動に重点を置く。

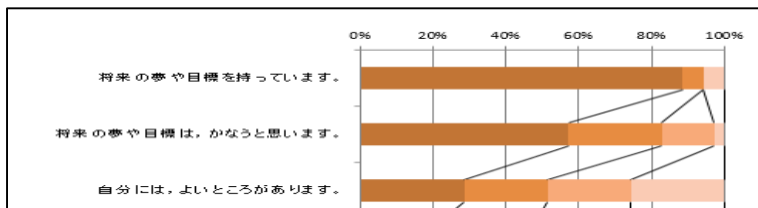
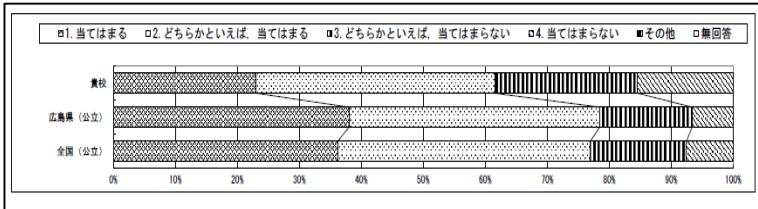
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4. 5年 標準学力調査	5年 R2 「全国学力」	5年 R3 「全国学力」	4. 5年 学年末まとめテスト
目標値				70%	70%	70%	80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年 単元末テスト 「単位量あたりの大きさ」	5年 単元末テスト「割合」		5年 単元末テスト「速さ」	
目標値			80%	80%		80%	
実施後数値							

来年度に向けて

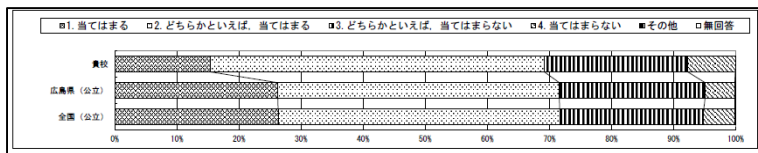
(1) 生活・学習

自分にはよいところがありますか。

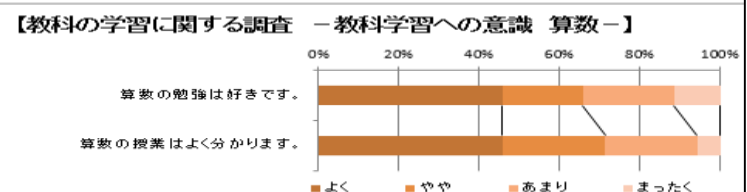
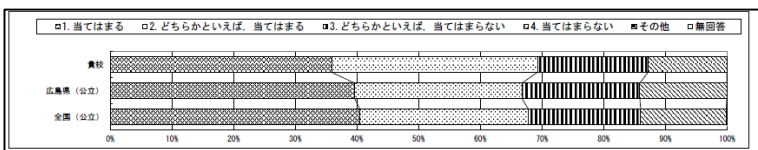


(2) 教科

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている。



算数の授業はよく分かります。



	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	「自分にはよいところがありますか」の質問項目に対して、肯定的な回答をした児童の割合が低い。(肯定的回答 61%【全国】、51%【学習意識等】)	学級活動や委員会活動などで、役割意識をもって活動させ、それをお互いに認め合う場を設定する。 プラス言葉の働きかけを教師が意識すると共に、懇談会などの機会を捉えて、本調査結果を保護者に示し、「子どもの自己肯定感の高め方」についての意識啓発を行う。	5・6年	80	児童アンケート	2月	

	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	「国語科の学習が好き」・「内容がよく分かる」と答えた児童の割合に対して、「目的に応じたり、工夫したりして文章を書くことができる」と答えた児童の割合が県平均より低い。(肯定的回答 69%【全国】)	授業改善について次のような具体的な取組が考えられる。 まず、ナンバリングやキーワードを使ったり、順序立てて文章を書いたりする場を国語科に限らず学校の教育活動全体の中で取り入れる。 次に、フレーム読みを行ったり、段落分けを意識した学習を取り入れたりするなど、長文を構造的に分けて短い文にまとめる活動を行う。 さらに、「工夫して文章を書くこと」については、工夫の例を提示して、常に活用できる学習環境を作っておくようにする。	5・6年	80	児童アンケート	2月	
算数	他の教科に比べ、「算数科の学習が好き」と答えた児童の割合が低い。「役に立つ」・「大切だ」と答えている児童が多いのに対し、「算数科の学習を好きだ」と実感している児童が少ない。(肯定的回答 69%【全国】、66%【学習意識等】)	算数が毎日の生活の中で役に立つことをいろいろな体験を通して実感させる。また、児童一人一人の考え方の違いを認め、思考の側面を取り上げ、適切に評価を行う。 問題文の読解力を身に付けさせ、問われている内容を理解できるようにする。 教材教具の工夫をして、数学的活動を積極的に行い、体験を通して楽しく学習できるようにし、児童が数学のよさを感じられるようにする。	5・6年	80	児童アンケート	2月	